

# 1. 手術室内での手術件数

## 項目の解説

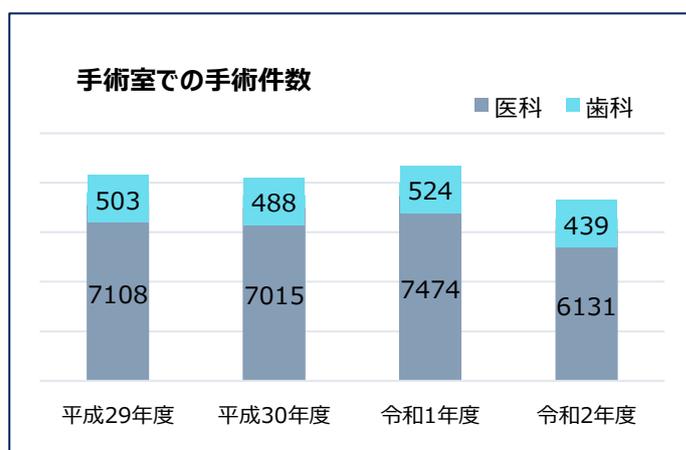
大学病院は急性期医療の要として、外科治療の力が問われており、手術件数はその一つの指標です。外科医、麻酔科医、看護師、手術室などの医療チームが手術室を効率的に活用し、いかに手術件数を確保するかが重要です。手術スタッフ、設備、手術時間などの効率的な運用を総合的に判断する指標です。

## 算式

実数

## 当院の実績

	医科手術件数	歯科手術件数
令和02年度	6131件	439件
令和01年度	7474件	524件
平成30年度	7015件	488件
平成29年度	7108件	503件



## 定義

手術室で行われた医科（歯科）診療報酬点数表区分番号 K920、K923、K924（輸血関連）以外の手術件数です。

ただし、複数術野の手術など、1手術で複数手術を行った場合は、合わせて1件としています。

## 2. 緊急時間外手術件数

### 項目の解説

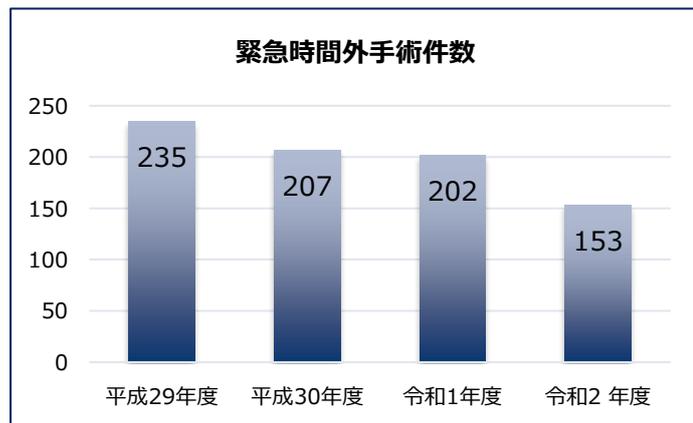
夕方以降から深夜、日曜日、祝祭日などの通常時間帯以外の手術に対応できる体制を評価する指標です。予定外の緊急時間外手術に常に備えるには、十分なベッド数や検査・画像診断機器などの設備や、麻酔医や執刀を行う医師・看護師などのスタッフが必要です。

### 算式

実数

### 当院の実績

令和02年度	153件
令和01年度	202件
平成30年度	207件
平成29年度	235件



### 定義

手術件数のうち土日の実施または、平日で手術開始時間が9時以前、18時以降に実施された手術件数です。あらかじめ計画された時間外手術は除きます。

複数術野の手術など、1手術で複数手術を行った場合でも、同一日の複数手術はあわせて1件とします。

# 3. 全身麻酔件数

## 項目の解説

麻酔には、意識はあるが痛みを感じない状態にする局所麻酔と、呼吸管理のもと完全に意識のない状態にする全身麻酔があります。

全身麻酔は、局所麻酔と比べ麻酔医や手術看護師などの負担が大きくなります。

全身麻酔件数は、手術部門の業務量を反映し、高度な診療の指標となります。

## 算式

実数

## 当院の実績

令和 02 年度	5128 件
令和 01 年度	6118 件
平成 30 年度	5415 件
平成 29 年度	4849 件



## 定義

手術目的の全身麻酔の件数で、医科診療報酬点数表における「L009 麻酔管理料（Ⅰ）L010 麻酔管理料（Ⅱ）（マスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔）」を算定した件数です。

検査などにおける全身麻酔の件数は除きます。

## 4. 重症入院患者の手術麻酔件数

### 項目の解説

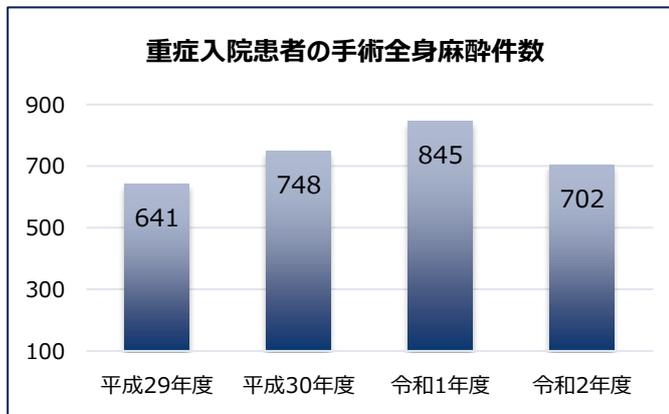
心臓の動きが悪くなる心不全という疾患をもつ患者など、重症な患者の手術を行うことも大学病院の社会的責任の一つと言えます。重症な患者に全身麻酔をかけて手術をする場合は、生命の危機をはじめ様々な危険が伴います。従って、手術中のみならず手術前後で十分に患者を観察し、慎重な麻酔を行える体制が必要になります。この指標は麻酔管理の難しい重症患者の手術ができる麻酔能力の高さとも言えます。

### 算式

実数

### 当院の実績

令和02年度	702件
平成01年度	845件
平成30年度	748件
平成29年度	641件



### 定義

DPCデータを元に算出した、医科診療報酬点数表における「L008 マスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔（麻酔困難な患者）」の算定件数です。

# 5. 幹細胞移植件数

## 項目の解説

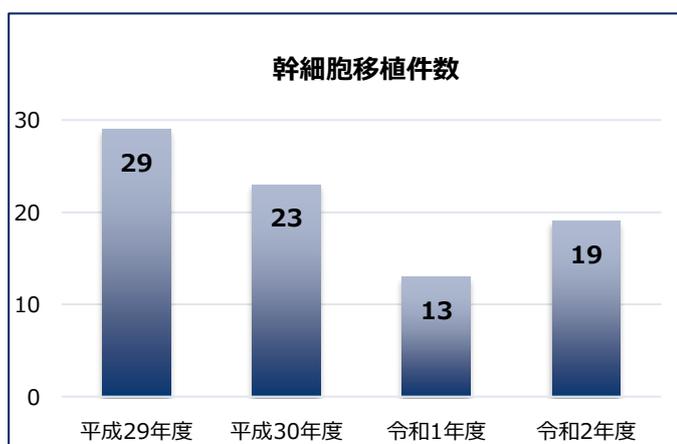
白血病などの血液悪性腫瘍の診療は大学病院以外でも普及していますが、依然として高度な知識、技術設備のある病院で行われる必要があります。その治療のひとつに幹細胞移植があり、高度な医療提供を示す指標と言えます。

## 算式

実数

## 当院の実績

令和 02 年度	19 件
令和 01 年度	13 件
平成 30 年度	23 件
平成 29 年度	29 件



## 定義

当該 1 年間の臍帯血・幹細胞・骨髄移植の件数です。  
自家移植も含まれます。

## 6. 新生児のうち、出生体重 1500 g未満の数

### 項目の解説

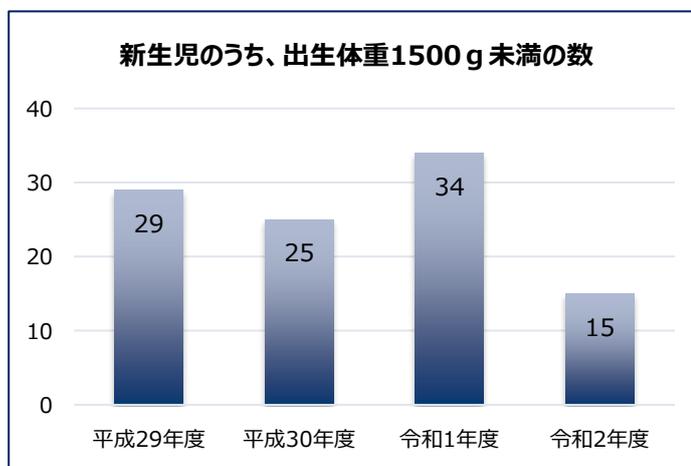
出生時体重が 1500 g 未満の新生児を極低出生体重児といいます。このような新生児の治療には高度な設備をもつ新生児特定集中治療室（NICU）での人工呼吸器や点滴、栄養管理などの特別な治療が必要です。これらの実施のためには、経験のある医師、看護師を 24 時間体制で配置する必要があります。極低出生体重児の管理は、極めて重症度の高い周産期医療を提供していることを表します。

### 算式

実数

### 当院の実績

令和 02 年度	15 件
平成 01 年度	34 件
平成 30 年度	25 件
平成 29 年度	29 件



### 定義

当院における出生数です。  
死産は除きます。

## 7. 新生児特定集中治療室（NICU）実患者数

### 項目の解説

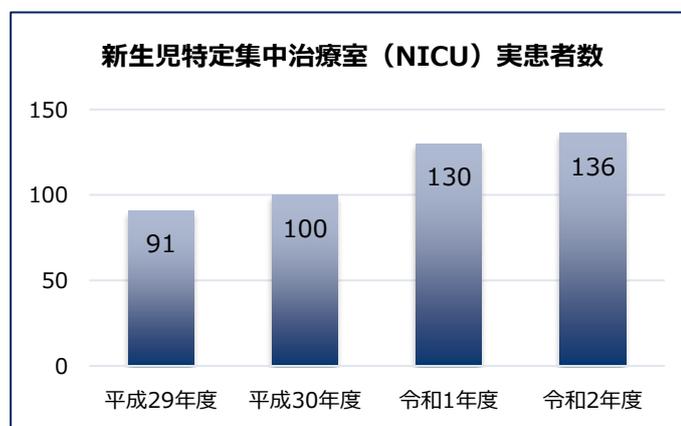
新生児特定集中治療室（NICU）とは、低体重児や早産児、先天性障害のある新生児を集中的に治療する病床です。新生児集中治療専門の医師と看護師が、24 時間体制で保育器の中の新生児を治療します。病院内外から重症の新生児を受け入れ、集中的な治療を行う意味で、産科小児科領域の医療の「最後の砦」とも言われ、NICU 実患者数は周産期医療の質と総合力の高さを表現しているものといえます。

### 算 式

実数

### 当院の実績

令和 02 年度	136 件
令和 01 年度	130 件
平成 30 年度	100 件
平成 29 年度	91 件



### 定 義

医科診療報酬点数表における「A-302 新生児特定集中治療室管理料」を算定する新生児特定集中治療室（NICU）にて集中的に治療を行った実人数です（延べ人数ではありません）。

## 8. 緊急帝王切開数

### 項目の解説

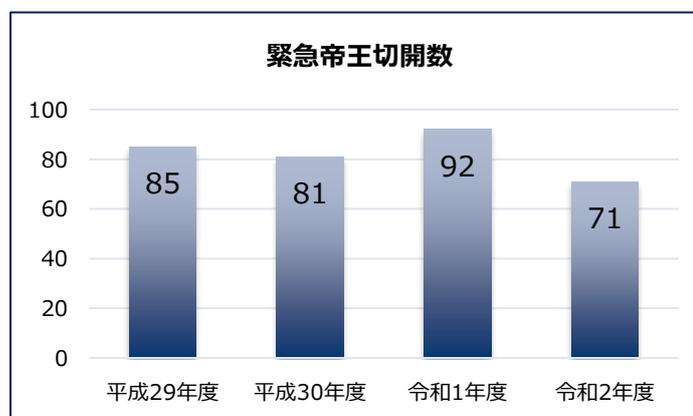
妊婦が自然分娩できない場合や、何らかの理由で早急に出産する必要がある場合は、帝王切開が必要になります。帝王切開には予定された帝王切開と、母胎や胎児に何らかの事態が生じたため緊急に実施する緊急帝王切開（院外からの緊急搬送も含む）があります。緊急帝王切開となった場合、帝王切開を行うことのできる医師、新生児への治療ができる小児科医、麻酔医、看護師、手術室などの設備が必要であり、周産期医療の提供能力を表す指標といえます。

### 算式

実数

### 当院の実績

令和02年度	71件
令和01年度	92件
平成30年度	81件
平成29年度	85件



### 定義

当院の緊急帝王切開の実施数です。  
年度別に作成する退院患者疾病統計の分娩統計の実数です。

# 9. 直線加速器による定位放射線治療患者数

## 項目の解説

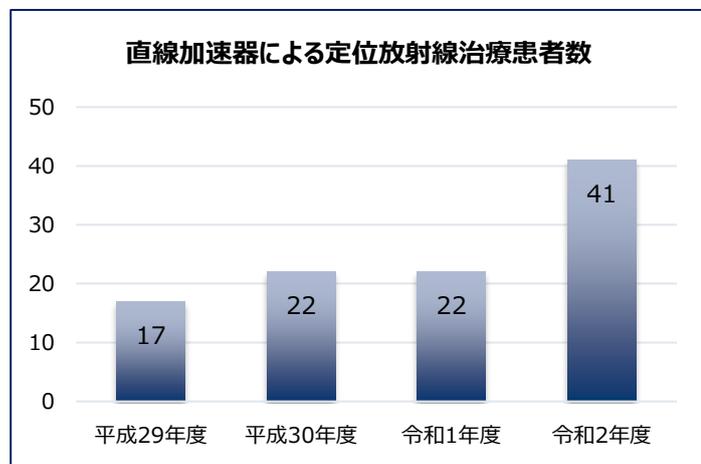
定位放射線治療とは、病巣の三次元的形状（凹凸）に合わせて様々な角度と照射野で放射線照射を行うことによって、周囲正常組織を傷つけずに、病巣を選択的に治療するものです。綿密な治療計画と施行時の正確なポジショニングが必要なため、通常の放射線治療より時間もかかります。より高度な放射線治療を施行する力を表す指標といえます。

## 算式

実数

## 当院の実績

令和02年度	41件
令和01年度	22件
平成30年度	22件
平成29年度	17件



## 定義

直線加速器による定位放射線治療を実施した患者数です。

# 10. 病理組織診断件数

## 項目の解説

大学病院においては、高度な治療を行うだけでなく、その前提となる診断が適切になされていることも大切です。正確な診断の最終根拠として病理診断が要になります。病気の最終・確定診断がどの程度行われているかを示す指標です。

## 算式

実数

## 当院の実績

令和02年度	7924件
令和01年度	8666件
平成30年度	8285件
平成29年度	7846件



## 定義

入院と外来の合計で、細胞診は含みません。  
病理組織診断を実施した件数です。

# 11. 術中迅速病理組織診断件数

## 項目の解説

術前診断の難しい疾患は、手術中の病理診断に基づいて手術方法や病巣切除の適否や切除範囲が決められます。限られた手術時間中に、迅速かつ正確な病理診断を行うには、熟練した病理医や設備が院内に必要となります。

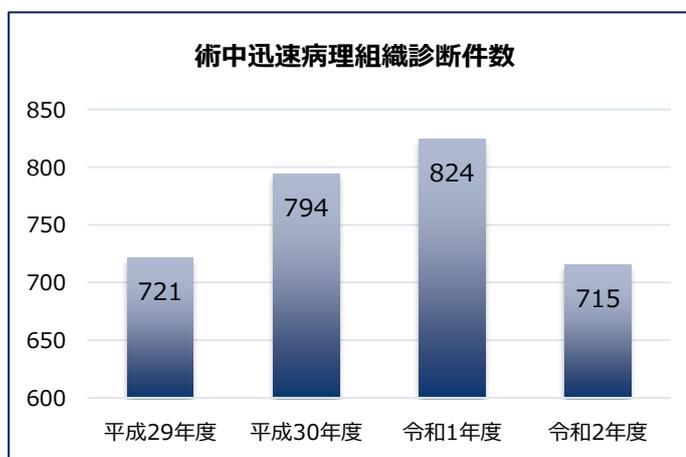
件数が増加するほどこれらの機能が充実していることを表します。

## 算式

実数

## 当院の実績

令和02年度	715件
令和01年度	824件
平成30年度	794件
平成29年度	721件



## 定義

術中迅速病理組織診断を実施した件数です。

# 12. 薬剤管理指導料算定件数

## 項目の解説

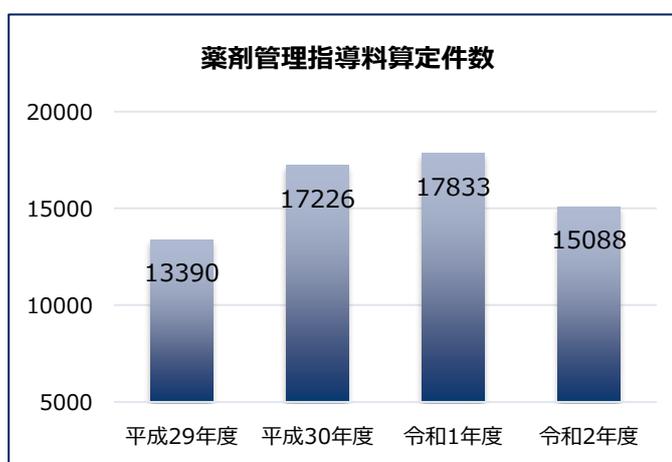
薬剤管理指導管理料は、医師の指示に基づき薬剤師が直接入院患者の服薬指導を行うもので、薬剤に関する注意及び効果、副作用をわかりやすく説明し、患者とともに有効かつ安全な薬物療法が提供されていることを示します。

## 算式

実数

## 当院の実績

令和02年度	15088件
令和01年度	17833件
平成30年度	17226件
平成29年度	13390件



## 定義

医科診療報酬点数表における「B008 薬剤管理指導料(1)(2)」の算定件数です。

# 13. 外来でがん化学療法を行った延べ患者数

## 項目の解説

かつて入院が必要であった化学療法の多くが、外来で行えるようになりつつあります。これにより、通常に近い日常生活を送りながら治療を受けることができるようになり、患者の生活の質(QOL)の向上につながっています。

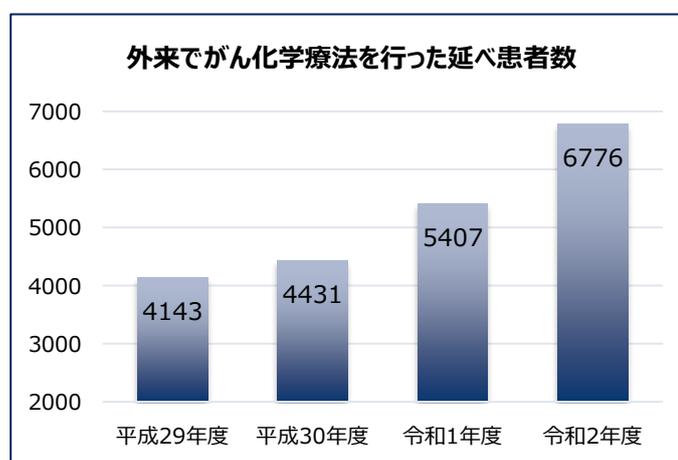
一方、外来で適切に化学療法を行うためには、担当の医師、看護師、薬剤師の人的配置も含め、相当の体制整備が必要であり、それらの充実度を示しています。

## 算式

実数

## 当院の実績

令和02年度	6776件
令和01年度	5407件
平成30年度	4431件
平成29年度	4143件



## 定義

医科診療報酬点数表における、「第6部注射通則6 外来化学療法加算」の算定件数です。

# 14. 無菌製剤処理料算定件数

## 項目の解説

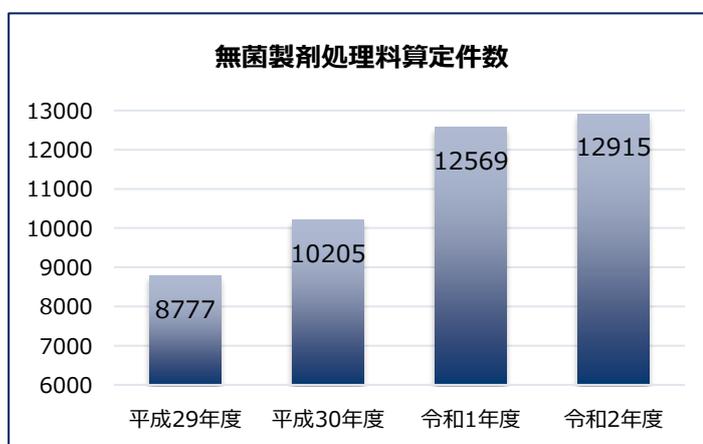
がん化学療法や、特別な栄養管理に使用される注射薬の準備には、経験豊富な薬剤師とクリーンベンチ（空气中の細菌を取り除いた空間）が必要です。無菌製剤処理料算定は上記のことを算定する点数ですが、算定のためには薬剤師数の確保と充実した設備が必要です。薬剤部の業務を評価するとともに、より高度で適切な薬物治療を提供していることを示しています。

## 算式

実数

## 当院の実績

令和02年度	12915件
令和01年度	12569件
平成30年度	10205件
平成29年度	8777件



## 定義

医科診療報酬点数表における、「G020 無菌製剤処理料(1)(2)」の算定件数です。

# 15. 多剤耐性緑膿菌による院内感染発症件数

## 項目の解説

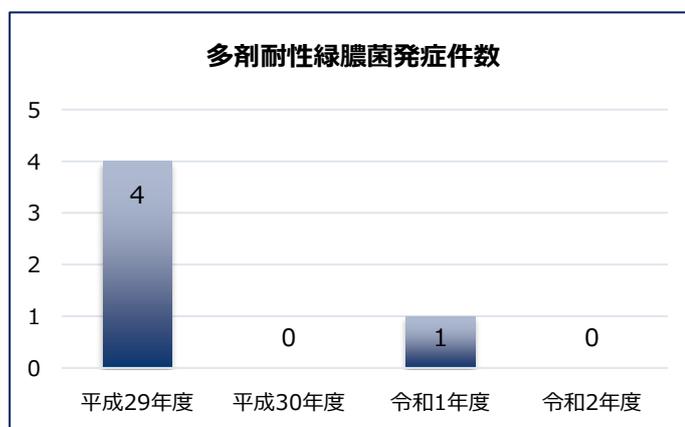
免疫力が低下した患者が多剤耐性緑膿菌に感染すると、難治性の感染症を引き起こします。院内の手洗いを励行するなど、適切な院内感染予防対策の実施により、発症頻度を低減することが可能です。この指標は、院内感染予防対策の実施と、その効果を示す指標といえます。なお、この指標の集計に際し、対象となる菌が検査で検出されているが、発症が認められない症例については除外しています。

## 算式

実数

## 当院の実績

令和02年度	0件
令和01年度	1件
平成30年度	0件
平成29年度	4件



## 定義

当該年度1年間の新規多剤耐性緑膿菌発症患者です。  
保菌者による持ち込み患者は除きます。

# 16. 新規外来患者数

## 項目の解説

地域の民間病院との連携を強化し、より多くの患者に高度な医療を提供することが大学附属病院の使命の一つです。新規外来患者の診療数は、より多くの患者に高度医療を提供していることを表現する指標となります。

## 算式

実数

## 当院の実績

令和02年度	8753件
令和01年度	10913件
平成30年度	11097件
平成29年度	12040件



## 定義

当該年度1年間に新規でIDを取得し、かつ診療録を作成した患者数です。診療科単位ではなく、病院全体単位で新規にIDを取得した場合が該当します。外来を経由しない入院も含まれます。

# 17. 初回入院患者数

## 項目の解説

新規に入院診療を行う患者数を示す指標です。

入退院を繰り返すことの多い疾患（化学療法など）を数えた入院患者数では、病院の新規の治療で入院した患者を反映しません。本項目は、より多くの患者に新たに入院医療を提供していることを表現する指標です。

## 算式

実数

## 当院の実績

令和02年度	8979件
令和01年度	10302件
平成30年度	10112件
平成29年度	10095件



## 定義

当該年度1年間の入院患者のうち、入院日から過去1年間に当院に入院歴のない入院患者です。診療科単位ではなく、病院全体として考え入院履歴のない場合は該当します。

# 18. 在院日数の指標

## 項目の解説

厚生労働省の DPC 評価分科会の公開データです。

(当該年度全調査対象医療機関の全体の在院日数の平均値を、DPC 毎の患者構成を当該年度全国平均に合わせた際の医療機関別の在院日数で除した値)

参考：DPC 導入の影響評価に関する調査（厚生労働省）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/iryohoken/database/sinryo/dpc.html>

## 算式

指数

## 当院の実績

令和 01 年度	1.06
平成 30 年度	1.01
平成 29 年度	0.96
平成 28 年度	0.94



## 定義

厚生労働省から、毎年 3000 を超える施設の平均在院日数が、施設名を添えて公開されています。この平均在院日数は、短いほど効率的な診療を行っていると考えられますが、重症のため入院期間を長くする必要のある症例の治療を行う病院のことを十分に考慮していません。そのため、この指標はそうした病気の重症度を加味して各病院の在院日数を評価しています。数値が 1 の場合は全国平均と同じ在院日数であることを表します。1 より大きい場合は短い在院日数であることを表しており、効率的な病院であると考えられます。

# 19. 患者構成の指標

## 項目の解説

厚生労働省の DPC 評価分科会の公開データです。

(DPC 毎の在院日数を該当年全国平均に合わせた際の医療機関別の在院日数を、当該年度全調査対象医療機関の全体の在院日数の平均値で除した値)

参考：DPC 導入の影響評価に関する調査（厚生労働省）

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/iryuhoken/database/sinryo/dpc.html>

## 算式

指数

## 当院の実績

令和 01 年度	1.01
平成 30 年度	1.01
平成 29 年度	1.02
平成 28 年度	1.03



## 定義

在院日数の長い複雑な疾患の患者を、どの程度診療しているのかを表現した指標です。全国の DPC 対象病院の疾患毎の平均在院日数を用いて、患者構成の違いを相対的に表します。

数値は 1 が全国平均であり、1 より大きい場合、在院日数を長く必要とする複雑な疾患を診療している病院といえます。つまり、高度な医療を提供する大学附属病院として、治療の内容が複雑な患者をより多く診療していることを示す指標です。項目 20「在院日数の指標」と、項目 21「患者構成の指標」の二つの指標をつかって、どの程度複雑な疾患を、どの程度効率的に診療しているか、病院の特性を知ることができます。

## 20. 指定難病患者数

### 項目の解説

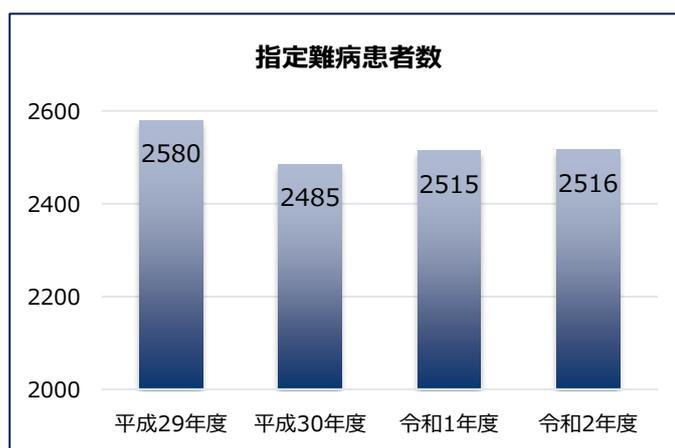
難病性疾患の診療には、特別な専門知識や診療体制が必要です。その状況を示す指標となります。

### 算式

実数

### 当院の実績

令和02年度	2516件
令和01年度	2515件
平成30年度	2485件
平成29年度	2580件



### 定義

難病指定は「難病の患者に対する医療等に関する法律（平成二十六年法律第五〇号）」第五条第一項に規定する疾患を対象とします。（平成30年7月1日現時点で331疾患）。

参考URL 厚生労働省 指定難病

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000084783.html>